



篠山城跡

城の縄張は、築城の名手であった藤堂高虎が行いました。笹山という小山を利用した一辺約400mの方形の平山城で、堀を二重に廻し、外堀の三方に出入口として馬出を設け、防御に徹した城構えとなっています。江戸時代を通して譜代大名の松平三家8代、青山家6代の居城となりました。

明治維新以後、城内のほとんどの建造物が取り壊されましたが、石垣と堀、馬出などの遺構がほとんどその原形を残していることから、昭和31年(1956)12月28日に国の史跡に指定されました。また平成18年(2006)4月には「日本100名城」に認定されました。



旧武家町の町並み

篠山城跡の周囲に広がる西新町と南新町、東新町は旧武家町で、外堀沿いに長屋門が数棟残されています。御徒士町通り(西新町)には、間口平均8間、奥行25間という江戸時代の敷地割がよく残り、通りに沿って土塀と棟門が配され、2間ほど後退させて茅葺入母屋造の主屋を建てています。また主屋の裏側には土蔵や竹藪が配され、武家屋敷のたたずまいを今に伝えています。



城下町 篠山の町並み

- ◆ 国選定重要伝統的建造物群保存地区 ◆
- ◆ 都市景観大賞(都市空間部門)受賞 ◆
- ◆ 美しい日本の歴史的風土100選選定地域 ◆
- ◆ 日本100名城認定城跡 ◆



篠山城跡



旧商家町



旧武家町

城下町で行われる主な行事



丹波篠山ひなまつり



丹波篠山・まちなみアートフェスティバル



春日神社例祭

- 1月 春日神社 元朝能「翁」
- 2月 王地山稲荷社節分徹宵星祭
- 3月 篠山ABCマラソン 丹波篠山ひなまつり
- 4月 丹波篠山さくらまつり 丹波篠山盆桜展 春日神社「篠山春日能」 青山神社例祭 王地山稲荷社春季大祭 王地山まけきらい稲荷と妻入商家 春のれん
- 8月 丹波篠山デカンショ祭
- 9月 丹波篠山・まちなみアートフェスティバル 全国車いすマラソン
- 10月 丹波篠山味まつり 春日神社例祭 篠山市菊花展
- 11月 ササヤマルシェ ふるさと農業まつり

※行事情報はパンフレット作成時のものです。最新の情報はホームページ等で確認をお願いします。

交通のご案内



電車で来られる場合

JR福知山線「篠山駅」下車、バス「二階町」・「本篠山」下車、またはタクシーをご利用ください。(JR大阪駅から約1時間、篠山駅からバス・タクシーで約15分)

自動車でお来られる場合

舞鶴若狭自動車道「丹波篠山IC」から東へ約10分。または国道176、372、173号線をご利用下さい。駐車場は篠山城跡周辺の駐車場(有料)をご利用ください。

ボランティアガイド・レンタサイクルのご案内

篠山観光案内所までお問合せください。TEL 079-552-3380

福住の町並み

城下町から東へ約12kmの位置にある、宿場町・農村集落の町並み福住重要伝統的建造物群保存地区へもお越しください。

重要伝統的
建造物群
保存地区

発行:篠山市教育委員会(電話:079-552-5792)
〒669-2397 兵庫県篠山市北新町4-1
平成27年3月作成

篠山 伝建 検索

城下町篠山の歴史

篠山は、古くから京都と山陰、山陽を結ぶ交通の要衝の地でした。江戸時代になると、幕府により大坂城の豊臣氏と西日本の大名を分断する格好の地として軍事上重要な位置づけがされ、慶長14年(1609)に徳川家康の命による天下普請によって篠山城が築城されました。翌15年(1610)からは城下町が計画的に整備され、江戸時代を通して丹波国篠山藩5万石(文政10年[1827]からは6万石)の中心地として栄えました。

城下町は、城の周囲に武士の屋敷地が配され、その外側に城下町を貫くように京街道が引き込まれ、街道沿いに町人地が配されました。また城下町の入口や要所には寺院が配されました。

篠山重要伝統的建造物群保存地区の概要

城下町における保存地区の範囲は、国指定史跡篠山城跡とその周囲に町割された旧武家町と旧商家町からなり東西約1,500m、南北約600m、面積約40.2haに及びます。

保存地区は、篠山城跡を核として武家町や商家町の町割を残すなど、近世の城下町の基本的構造をよく残すとともに、武家屋敷や近世から近代にかけて建てられた町家や寺院堂舎など、城下町の要素を全体としてよく残しています。

保存地区の町並みは、城下町篠山の歴史的風致をよく今日に伝え、全国でも価値が高いと評価され、平成16年(2004)12月10日に国の「重要伝統的建造物群保存地区」に選定され、平成19年(2007)2月には「美しい日本の歴史的風土100選」に選ばれました。また平成26年(2014)6月には「都市景観大賞(都市空間部門)」を受賞しました。



旧商家町の町並み

城下町の南東に位置する小川町と河原町は旧商家町で、東西約700mの通りに沿って江戸時代末期から昭和戦前期の町家や土蔵が建ち並び、城下町の歴史的景観をよく留めています。間口が平均3間、奥行20~60間の敷地割が多く、間口が狭く奥行が深いことが特徴です。主屋は妻入、中二階建、棧瓦葺が主で、平入も少ないながら存在します。外壁は大壁造の漆喰仕上げ、窓は中二階のものは出格子窓か虫籠窓が一般的で、かつての表構えは、おどと大戸と格子、蔀戸を基調としていました。





『春日神社祭礼画帖』春日神社蔵



おおしよん 大書院

篠山城内最大の建造物であった大書院は昭和19年(1944)に焼失しましたが、平成12年(2000)に学術調査にもとづき正確に復元されました。



二の丸御殿跡庭園

二の丸御殿跡は江戸時代の絵図や発掘調査の成果をもとに、御殿跡の部屋などの間取りを平面表示しています。



『春日神社祭礼画帖』春日神社蔵



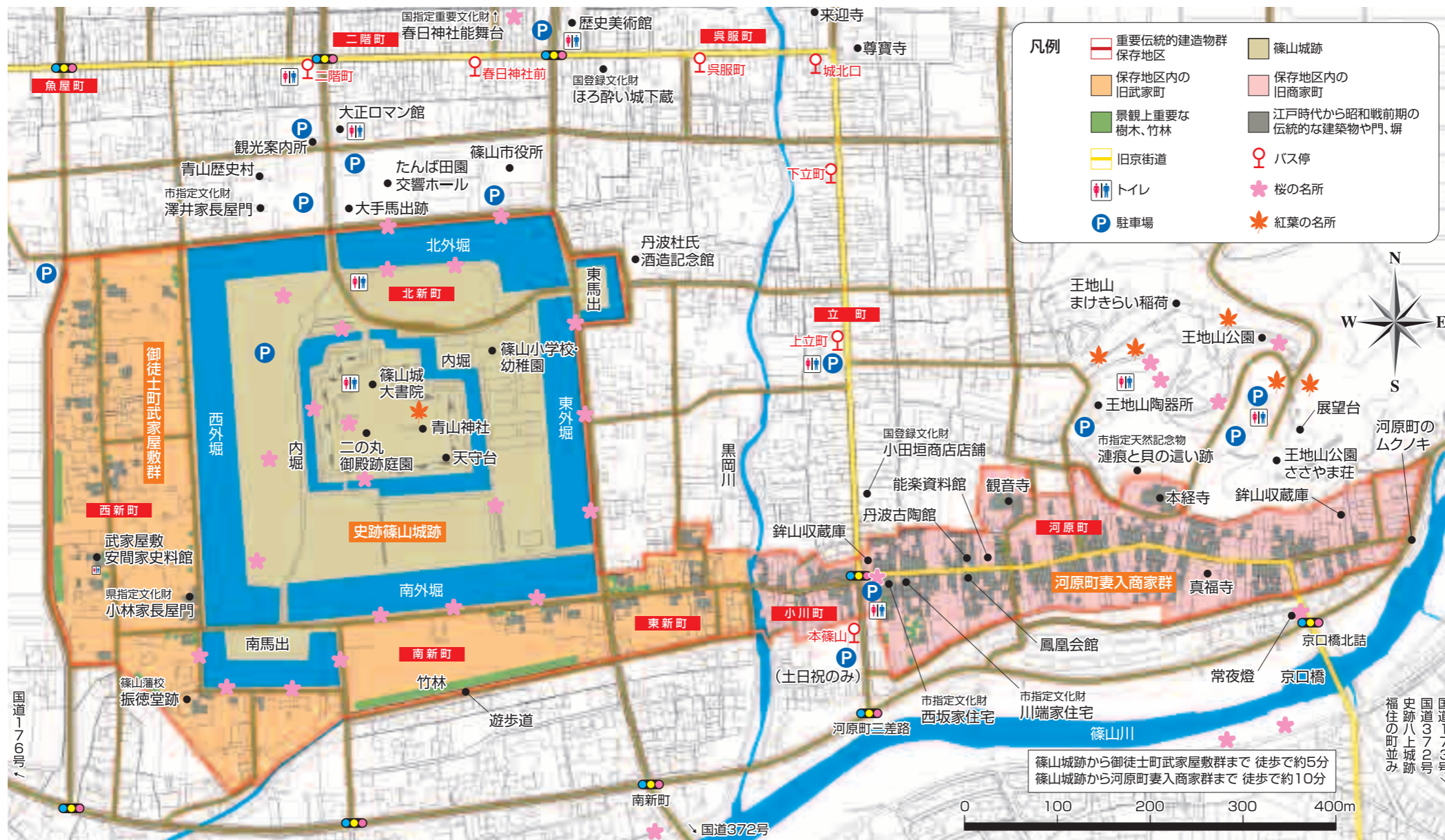
小林家長屋門(県指定文化財)

文化年間(1804~18)に建築されたと伝わる入母屋造茅葺の長屋門。篠山城西外堀に面し、当時の面影を今に伝える貴重な建造物です。内部は非公開。



安間家史料館(市指定文化財)

茅葺で平入、曲屋形式(平面がL字型)の主屋と瓦葺土蔵が残る徒土住宅です。内部には江戸時代の文書や食器を始め武具などを展示公開しています。



西坂家住宅(市指定文化財)

かつて醤油屋を営んでいた家で、江戸期の妻入商家の姿を今に伝える貴重な建造物です。内部は非公開。



川端家住宅(市指定文化財)

明治・大正期の町家で、約713坪の敷地に平入主屋と土蔵4棟、離れ、納屋などが当時の姿のまま残る貴重な建造物です。内部は非公開。

伝統的建造物の意匠 ~匠の技を今に伝える町並み~



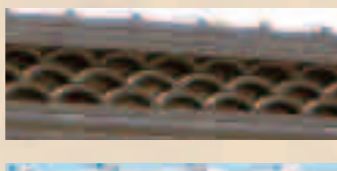
かやぶきやね 茅葺屋根



むなもん 茅葺棟門



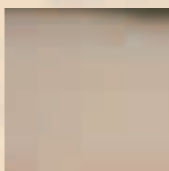
ほんがわらやね 本瓦葺屋根



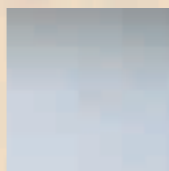
せいかい はがわら 青海波瓦



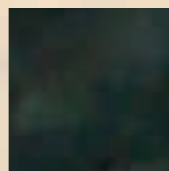
とりぶすま 鬼瓦と鳥袞



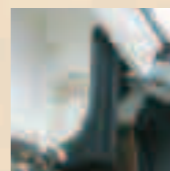
はいなかぬりかべ 灰中塗壁



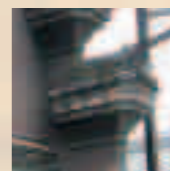
しろしっくいぬりかべ 白漆喰塗壁



くろしっくいぬりかべ 黒漆喰塗壁



そでかべ こてえ 袖壁と鋺絵



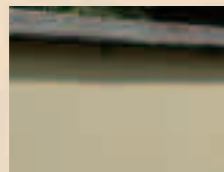
うだつ 卯建



あらごうし おおど ほそごうし 荒格子 大戸 細格子



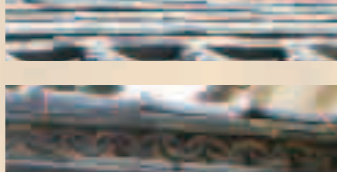
おきちぎ 置千木



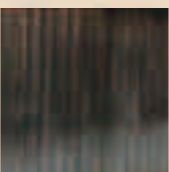
すぎかわぶきどいべい 杉皮葺土塀



さんかわらやね 棧瓦葺屋根



のしかわら 熨斗瓦



はめいたばりかべ 羽目板張壁



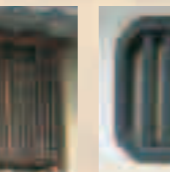
したみいたばりかべ 下見板張壁



なまこかべ 海鼠壁



でごうしまど 出格子窓



むしこまど 虫籠窓



つまいり ひらいり 代表的な妻入町家 代表的な平入町家